

# 多摩六都科学館 開館30年

1994年3月1日に開館した多摩六都科学館は今年で開館30年、ということで、記念企画「扉の向こうを覗いてきました！」

## プラネタリウム

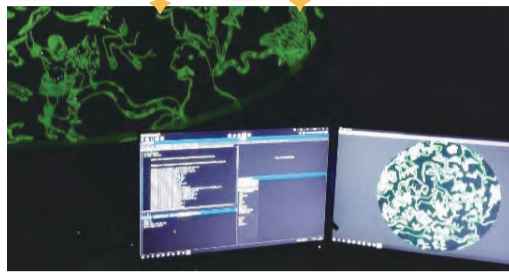
初代の投映機「ヘリオス」(現物)と、現役の投映機「ケイロンII」(模型)の展示の横にある扉



1の扉



投映機の展示の後ろにある恒星筒。使っているうちに、本体が非常に熱くなってしまい、電源スイッチを操作するときに、うっかり本体を触ってしまうと、ちょっと危ない…そこで、誰でも安全に見学できるように、多摩六都科学館ボランティア会のメンバーが、別にスイッチを作ってくれたそうです。緑のボタンがそのスイッチ。



科学館が誇るプラネタリウムドーム「サイエンスエッグ」。そこで投影されるプログラムはここで作っています！

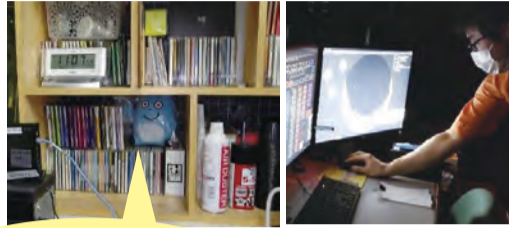
最近は、パソコンからの星を映すデジタル式もありますが、こちらでは、光学式投映機とデジタル式を併用しています。

プログラミングは、解説員の方が自分で作業しているそうです。作成する方の個性が出てくるのですが、作成した本人が説明するとは限らないので…同じ放映内容でも、解説員の個性が出ます。

そのほか、展示物の作製等を行っているスペースや天体観望会で使う望遠鏡の保管スペースがあります。

ペガロクくん発見！

※ペガロクくん、バックヤードでも、あちこちで頑張ってます



## 展示室3

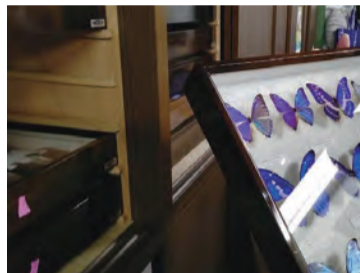
しくみの部屋にあるしくみラボの隣の扉



3の扉



この日は、空気砲がたくさん！しくみラボで、実際に体験できました。その他、科学館で使う備品等がある、名前の通り、倉庫でした。



## 展示室4

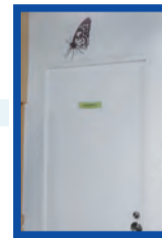
自然の部屋にあるしぜんラボの奥にあるこの扉

壁にずらっと並んだ標本ケースの収納棚が並んでいます。7月20日から9月1日まで開催の特別企画展「ロクト昆虫図鑑」の展示準備中にお邪魔しました。数ある収納ケースの中から、モルフォ蝶の標本ケース。美しい羽に目を奪われます。



こちらは、世界一大きい虫、「ナナフシ」の標本です。2匹いますが、小さいものは日本のナナフシ。世界には、こんな大きなものがあるんです！

続いて、2の扉



## 聞いてみました あなたの推し！

Q：あなたのオシ展示は？

A：投映機「ヘリオス」。本物を見ることができます！

天文グループ 齋藤さん

Q：あなたのオシ展示は？

A：ボールレース。自分で実際に試せるのでおススメ

インタープリンターグループ 湯浅さん

Q：あなたのオシ虫は？

A：ミヤマクワガタ。実際に見ることが出来る虫に、親近感を感じます。

須田研司氏 (むさしの自然史研究会)

お忙しいところ、ご協力いただきました多摩六都科学館の皆様、ありがとうございました。残念ながら、紙面の都合で載せられなかったお話は、協議会WEBサイト『たまろくナビ』に一部掲載しておりますので、ぜひ、ご覧ください。

協議会Webサイト

「たまろくナビ」をチェック！  
<https://www.tama6.jp/>



全編生解説プラネタリウム

# 宇宙のオバケ？

人間は理解できないものを怖がる生き物です

オバケやモンスターに見える天体の正体を暴きに行きましょう！



料金：観覧付入館券 大人 1,040円  
観覧付入館券 小人(4歳~高校生) 420円  
定員：先着234人  
(当日開館時よりインフォメーションにて観覧券を販売)

投影スケジュール：日にちにより異なります  
当館ホームページ(二次元コード)からご確認ください

会場・問い合わせ：多摩六都科学館



9/25(水) ~ 約45分 ★星空解説あり

Credit:NASA,ESA and STScI;Acknowledgement:H.Arab(University of Strasbourg)